中斎塾東京フォーラム
平成 31 年度（令和元年）第 7 回講話

令和元年 7 月 13 日
於　湯島聖堂

《今日のテーマ》
「初心忘る可からず」

「初心忘る可からず」に関しての本を回します。吉良さん、学生時代に世阿弥の「風姿花伝」習いましたね。なに習ったか私は全部忘れたね。「初心忘る可からず」だけ覚えている。「忘るる可からず」って覚えていたら、この本は「る」をひとつにしてた。良いなと思うのは、是非の初心忘る可からず、時々の初心忘る可からず、老後の初心忘る可からず。
今日は持ってきた物が多いですから、ご説明をいたします。
「初心忘る可からず」で、小さい時に、こういう人生を歩みたいと思う。その初心がずっといく。小さい頃、はなたれ小僧とじゃじゃ馬娘がいて途中で恋心が芽生えて、とても格好いい白馬の王子様や、キラキラ輝く女神様にみえて突然結婚をする。そういう歌がありますでしょう。それも「初心忘る可からず」で、お互いがキラキラ光る女神様と白馬の王子様に見えたというのは、そこの部分でお互いが初心だから、忘る可からずと見ればよい。それからお年を召してからも、自分が年をとったなと、どこかで自覚することがある。そうすると時々の初心忘る可からずだ。その時々で初心を忘れなさんなやと。
今日の書籍紹介で、そのところがいるなと思い 1 冊にしようかと思ったのですけど止めました。レジメの中に入っていると思います。

《紹介書籍》
「花鏡」世阿弥（**『風姿花伝・花鏡』**小西甚一編訳　たちばな出版所収）
時々の「初心忘る可からず」と。

『古代文明を訪ねて－アンコール遺跡』深澤賢治著
東南アジアへ行って、これは「初心忘る可からず」で、シムックスという会社をつくった時の創業精神があります。20 歳の時にベトナム戦争が始まる半年前に東南アジアへ私は出掛けました。10 ヶ国ほど一人で放浪をしました。お腹が減って食べ物を食べようとして

も言葉が通じない。持っていったものは 6 か国語辞典。カンボジアでは、まるっきり言葉が通じなかったが、最後はかなり慣れました。お腹を押さえて口を開けていると、何か食べ物をくれる。お金は、これだけだと見せると良心的に取るね。お金が無いときは頼まなかったけど。ということで、お腹がすいていたら何か食べさせるというのは万国共通ですね。身振り手振りで通じるものです。少し内容の濃い話をしようと思ったら、6 か国語辞典でカンボジアの場合はフランス語でしたから、フランス語に丸つけて見せると、賢そうな人はやっぱり理解します。あとは簡易カメラを持っていましたので、あちこち写しました。アンコールワットの遺跡を写しました。それをこの間しげしげと見ていたら、ベトナム戦争が正式に始まる半年前でした。確かに危ないね。カンボジアからタイに渡る時、歩いて渡ったら隠れていた兵隊連中が現われてピストル突きつけられて囲まれました。考えてみたら、捕まって首を落とされてもおかしくはないのですが、持っている物を調べたら、日本人学生の単なる旅行であると勝手に理解をしてくれて釈放してくれたのでしょう。生きて帰ってこれたという思いがあります。そのとき特に印象的だったのは台湾です。前にも話しましたが、場末の映画館に入って娯楽映画を見ていて休憩時間が終わり映画が始まる時に国歌が流れました。ゲラゲラ笑っていた人達が途端にスクリーンに向かって直立不動になる。これは何だ、国が違うとこうなのかと思いました。日本に帰ってきたら国家の意志が無い。国家の目的・国家意思が、まるでこの国は感じられないと強く思いました。私が会社をつくったら、国家に国家目標が無いから、自分で国家目標を作ろうと思い温めて考えたのが、今のシムックスの経営理念です。

「初心忘る可からず」というのは、ベトナム戦争が始まる前に東南アジアを 10 ヶ国放浪して帰ってきた時の日本の印象が私の初心になりました。こういう事をやりたいということが、その時に定まったからお見せしようと思いました。それが初心で、今も一貫して繋がっています。

『HOPPO　RYODO　100　Q&A』木村汎監修　人間の科学社

私が 35 歳の時に青年会議所という組織に入りました。そのとき北方領土委員会にたまたま所属をして、所属をしたときに本を初めて書こうと思ったのです。本を書こうと思った動機は、青年会議所のトップを会頭というのですが、その会頭が「今年度は本を青年会議所では出さないと決めた年である」と。だから私が本を出そうと思っても出せませんと言われましたが、それなら本を出そうと思い書きました。この本を作ったのはいいのだけれど、売り方がわかりません。そこで地婦連だとか色々なその時の政府の関係団体に推薦文を貰いました。推薦文を貰って、外堀を埋めて、青年会議所だけ推薦文がない。なので「政府側の関係諸団体、総務庁のような関係すべて推薦しているけど青年会議所だけ推薦していないのは何なんだと言われる状況ですよ」と組織の上部に言うと、「私らは判断できないから会頭と話してくれ」というから、会頭に「こういう状況下にあるが、青年会議所だけ

推薦しないのか」と言ったら、「どうぞお願いします」となりました。それで売らなきゃいけない。今度は、私の所にいる委員会の委員さんは全国から集まってきているので、何人の会員がいるかサッと調べて「貴方の所は500冊買いなさい」「貴方の所は100冊でいいよ」と割り当て一覧表を作って、お金は振り込みなさいとやったら、出版社は喜んだね。ということで、出版社と付き合うときの方法や、本を出すときの交渉の仕方を覚えました。

『警備保障のすべて』深澤賢治著　東洋経済新報社

これはまだ本屋で売っております。私は勝手に警備業研究家という名刺をこしらえて、警察庁に出掛けました。警備業を監督する部署はあるが、誰も知り合いはいません。でもそんなこと関係なくあちこち入っていったら、1人面白い人にぶつかって、仲良くなり資料をどんどん貰って書きました。警備業に関係する専門書ですから、警察から話は聞きましたし、監督官庁の意向も入れて、ありとあらゆることを載せました。ただ、この中でひとつだけ修正という箇所があって直した。腹立ったけどしょうがない。消防に関係するものも書いたら警察庁から連絡があって、まだ覚えている課長補佐です。課長補佐が絶対的権限を持ちます。その人が、「等」という文字を入れてくださいという。警察庁は警察関係の仕事を全統括するし、消防の仕事も見ている。警備会社は火事だといったら対処しなきゃならないわけです。消防について書いていたものを、ちょっと読みます。

「警備業法には火災に関する記述はないが、警備業法の定義中に「盗難等の事故の発生を警戒し」という項目がある。火災の防止は、この項目の中に含まれているというのが警察庁の有権解釈である。そして警備業者が警備を依頼しにきた顧客と契約を締結する際に、火災防止に関する項目は文章化するのが通常となっている。」と、この文章は続くのですが、警察庁からクレームがついた文章は、盗難等の「等」という一文字に消防も網羅をしておる。これが警察庁の有権、権限を持っている解釈であるという。課長補佐が警察庁を代表して、警察庁の有権解釈であると言っていいのですかって言ったら、「いいんです。私が法律です」みたいなことを言う。実際、課長になると1人で広い部屋を使います。課長補佐は大部屋に放り込まれて、小さい机に色々な資料を置く。その課長補佐クラスが警備業者の営業停止とか解散とか酷いことを決定し命令する権限を持っているのですね。

この本を出版した翌年から警察庁は、警備業者の規模や中身だとか世間に発表していないものを公表しだしました。そこでこの本は売れたのです。東洋経済新報社が続きも出してくれって言うが、膨大な資料にあたるから大変です。警察庁も警視庁も行くし政府が出す資料のチェックもする。それでセコムという会社が日本初の警備会社だといいますが、調べたらセコムが公表している4ヶ月前に別の警備会社ができていました。ところが宣伝が上手だから、いつの間にかすり替えられてしまって、世間にもそういう印象が定着した。そういう事も書いてある。なので、セコムはこの本を売るのは嫌がっていたね。でもセコムの警備教育の基本を作った教育担当責任者の松浦さんと話して納得しました。セコムの

教育担当責任者がそういう本音を言うなら付き合いましょうと言って付き合いました。その人のつてで、北海道にあるその人の土地の隣を買ってまだ持っています。そういうことで 2 巻を出したら、また売れるの。そしたら 3 巻目を書いてくれって言う。一生懸命に資料を調べるのは大変ですが、2 ヶ月ぐらい温泉宿に籠り、まあ調べた調べた。これぐらいの部屋を借りて、周辺に見えるように本や資料を並べて、真中に布団を敷いて、朝起きると資料に手を伸ばして書く。疲れると温泉に入る。そういうやり方で本を書いたから、本を書くときは資料と格闘してやることが身に付きました。それにシリーズで出すと結構売れるね。印税も入ったのでしょうけど、使っちゃって分からないが、これは普通の本屋さんで売ってくれて売れた本でございました。本に関する、これも「初心忘る可からず」のひとつです。

『木内信胤語録』三人会記録・編集

『木内信胤語録』はポケットマネーで書きました。私が師匠と呼んだ唯一の先生です。木内信胤先生が亡くなられた時に、自分で先生の語録を書きたいと思った。私は木内先生の話をお聞きするときに、自然と先生の話したものを全て筆記していました。だから今でも速記はできます。私流の速記です。人が話したものを書きとめる能力は、木内先生とお付き合いすることによって生まれました。ダンボール二箱ぐらいの資料があったので、私は先生が亡くなられた時に、木内先生の言葉を再現したいということで、一人でやらずに猪瀬さんと丸川さんを誘って三人会というのを作って出しました。木内先生の息子さんの孝さんがアメリカに居たので、アメリカに連絡を取って原稿を送ったら、「是非お願いします」という返事がきたので本にしました。それで木内孝さんにお渡しをしたら、礼状が色々ときました。皇室関係者や大企業から、えっと思う所からもきました。ポケットマネーで是が非でも、何が何でも出したいと思って出した本です。

これは再販した『木内信胤語録』です。これね、再販したけれども売れなかった。帯に「岩崎弥太郎・福沢諭吉の不思議な関係」というのを書いて、それで手に取らないかなと思ったんだけれどもね。不思議な関係というのは、そんな大したことはない。木内信胤先生は岩崎弥太郎の孫で、奥さんは福沢諭吉の孫ということです。ただそれだけが不思議な関係と書いて、それで引っ掛かるかと思ったら引っ掛からなかったという事です。

『夢・25 年　シムックス』創立 25 周年記念誌編集委員会

これは会社をつくって 25 年経った時に、記念誌を作ろうと思い作りました。そのとき色々お付き合いをしている人達を出しました。最近、石﨑さんが見えないけれども、石﨑さんの御亭主。合氣道のページで書いたのですけれども、私に合氣道を教えてくれた人で、学生時代は仲悪かった。卒業して会社こしらえてから、どうしても社内で、またお年を召し

た人も若い人もできる運動。特に相手を制圧するのは何かないかと思ったら、合氣道がある。石﨑は大学に勤めているから、教わろうと思ってのこのこ出掛けて 1 年で黒帯よこせって言ったら、そんなもん出せないよと。毎日来て練習してくれれば何とかならんことはないというので、石﨑の師匠の道場のすぐそばのアパートを借りました。私は自分の都合が合うたびに直ぐ出掛けて、石﨑先生とその上の田村先生を捉まえて、いま時間があるから教えてくれと通いました。それで、段を貰う前に何か細かいこと、幾つも幾つもやらされて、みなクリアしていって、1 年で何とかなりそうだとなり、試験があるからと言われ、ふらふらになって、へばってもまだまだ起きろと言って、こっちがボロボロになっても続ける。要するに私は力があったから、力づくでしていたものが、力が無くなって手が上に上がらない、足もふらふらになる。どうにもならない状況までやったらば、力の先にあるものをお前は覚えたみたいだからいいんじゃないと言って、しばらく経ってから合格をくれました。それでアパートは引き払いました。

それから若い頃の猪瀬さん、大野さん、岡本さん、吉良さんということで結構書いて貰っています。この頃は若かった。

何回か言いましたが、会社を立ち上げた時は、資本金 100 万円で社員 0 人。記念誌を見たら社員が 2000 人で資本金 1 億円と書いてある。これはひとつの区切りで、もうさっさと次にバトンタッチしなきゃいかんなと思ったのです。私の能力はここらへんで一丁上がりだと思ったのがこの頃です。それでこの 25 年の 5 年後に次の人にバトンタッチをしました。ということで、これは自分でそろそろ辞めよう。バトンタッチをしようと思ったら 25 年。それから 5 年後にバトンタッチをしたという。これも辞めようと思ったときの初心がありまして「初心忘る可からず」のひとつです。

『ロータリーと論語』太田南ロータリークラブ

これはロータリーの会長になった時、だいたい会長職は 1 年で終わりです。皆さんパっと消える。会長は毎回卓話をしなきゃいけない。私は残そうと思って、卓話した物を全部とっておいて文章に残しました。今ここで時事評論をやっているようなことをかなり入れました。

『澁澤論語を読む』深澤賢治著　明徳出版

私が良い書物だ。自分で好きだと思っている書物が澁澤栄一の書いた『論語講義』です。分厚い本ですが、私はその『論語講義』がとっても良いからと会社の役員達にも薦めました。4～5 年経ってから「読んだか」と聞いたら、「読んでいません」と。「何で？」と聞いたら、「こんな難しい本読めません」と。てふてふの世界で書いてあるから、しょうがないなと思って、わかりやすい本にしようと思って書きました。これも初心ですから、澁澤栄

一の『論語講義』に啓発されて書いた。この次はおこがましいけど、「澁澤論語」に匹敵するような分厚い「論語講話」を書こうと決めました。そのうち「論語講話」という分厚い本が出ます。今、話をしていること、時事評論をベースにして入れます。澁澤栄一が書いた『論語講義』だって、明治時代の偉人の言いたいことが色々と書いてある。西郷隆盛や大久保利通はどういう奴だ。江藤新平は酷い奴だとかね。前例がありますから、言いたいことけちょんけちょんに書こうと思います。時の総理大臣の話やらなにやらもね。今の安倍さんは酷いよ。何故なら、これが酷いあれが酷いとかっていうことも全て「論語講話」の中に入れようと思っています。

『陽明学のすすめⅠ』深澤賢治著　明徳出版社

二松学舎の理事長をしていた小林日出夫先生が、「君の書く本は「陽明学のすすめ」ということにしたら、どう？」と、タイトルを付けてくれました。私は 10 冊書くと決めて、今 7 冊まできました。昨夜決めたのですが、中江藤樹を書こうと思っても、なかなか書けない。似非君士に見えてしかたがないので、この間、佐藤一斎に切り替えて書いた。しょうがない、やっつけちゃえと思って。でも、中江藤樹かなり頭の中に入っていますから似非君士じゃなくて本物かなと思えたら、筆がはかどるので、どこかでそういう物を見つけます。8 冊目が中江藤樹。その中に熊澤蕃山も入れようかと思っています。9 冊目は西郷隆盛にします。10 冊目が澁澤栄一に対抗して「論語講話」分厚いのを書きます。でも論語講話を書いて陽明学シリーズを 10 冊刊行したら、もう本をこういう形で書くのはお終いって決めています。あとは妖怪変化の話を書いたり、まるっきりジャンルの違う物やいろいろ違うことを書こうと思っています。今まで本を出して出版記念をやったことがないので、何年か後に出版記念会はやろうと思っています。

それから参考資料の『おやじのおきみやげ』『兵隊と食べ物』深澤良男著

私がいろいろ話したものの裏付けになる資料を親は書き残してくれていた。例えばこの中で、私は結婚したのがいつだったか分からなかったのですが、賢治は今日結婚式だとか。今日、東南アジアに賢治が出発した。後に知ったのだが、勝利より 19 万円、女房の悦子から 3 万円、その他に 10 万円ぐらい持っていったようだ。大変な奴だって書いてある。まわりからいっぱい掻き集めただけですから、私がいろいろ言ったもの、やったものの裏付けがこういう所で出てきた。どうぞ御自分の身内が何かしたときに、裏付けになるような物をずっと記録しとくといいですね。

前半は紹介書籍で終わりましたが、全部これは「自々の初心忘るべからず」です。何故こんなことを話すかというと、毎回毎回、私は初心です。一度初心を立てると、それが終わらないでずっと続きます。一番始めの初心は、日本の国に、国の方針が無い。だから、

やろうと思った。初心を持ったら、現在もそれが続いています。本の書き方も出版社の付き合い方も続いています。初心も続いています。初心と名付けた物はみな今も続いて生きています。それらが全て身体の中に入っております。御自分も何かの初心だと思ったら、自々の初心忘るべからずが良い。そのようにお考えいただくと良いでしょう。

《恒例の質問》

・ここのところ、良い日が続いた方？
・ここのところ、ずっと嘘はついてない方？
・ここのところ、有難うと言うことはとっても多かったし、言われることも多かった方？
・今日は太極拳の方が来なかったから残念でございますが、健康法を毎日やっている方？
　夜寝るときに健康法をやらなかったなと思ったら、横になって寝たままで呼吸法だけやればいい。お腹を押して、息を口から出す。鼻から息を吸う。お腹を膨らます。呼吸法これだけ。これも健康法のひとつです。
・ここのところ、自分磨きをよくやっていると思っている方？
・昨夜寝るときに、明日を過去形でイメージして寝た方？

　質問のところに入れてよかった。前半は殆ど紹介書籍で失礼をいたしました。休憩です。

《論語の視点》季氏第十六　１後半

**　丘や聞く、国を有ち家を有つ者は、寡きを患えずして均しからざるを患え、貧しきを患えずして安からざるを患うと。蓋し均しければ貧しきこと無く、和げば寡きこと無く、安ければ傾くこと無し。夫れ是の如し。故に遠人　服せざれば、則ち文徳を修めて以て之を来す。既に之を来せば、則ち之を安んず。今　由と求とは、夫子を相くるに、遠人　服せざれども、来すこと能わず。邦　分崩離析すれども、守ること能わざるなり。而して干戈を邦内に動かさんことを謀る。吾　季孫の憂いは、顓臾に在らずして、蕭牆の内に在らんことを恐るるなりと。**

　季氏後半の「丘や聞く」は、「私が聞くところによれば」と、孔子が話をしているわけです。この場合は孔子が 70 代。それから冉有が 40 代。ここには季路と書いてあるから、季路は 60 代。それぞれの年齢を考えながら考えてください。孔子がお爺さんで、季路がそれにちょっと近づいている。さらに冉有は若い。そういう年関係の話です。

「丘や聞く、国を有ち家を有つ者は、寡きを患えずして均しからざるを患え」

現代に置き換えてみるとしたら、北朝鮮で置き換えしましょうか。孔子が聞くところによると、北朝鮮という国が存在をしているようだ。北朝鮮で考えた場合に、国家が国家として成立し続け、それぞれの国民の家族がきちんと暮せていける。又はそのように、しているかのごとく見える。そこで考えたときに、**「寡きを患えずして均しからざるを患え」**は、国民の数が少ないことを心配しないでいこう。ただ、食べ物、着る物が不公平であるといけない。だけど不公平そのものじゃないかと思うけどね。

日本はどうか。日本も今、少子高齢化ですから、**「患え」**は、日本の国民が少なくなってきて税金を納めてくれる人が減って困っているわけです。

中国も国民が減ってきている。こういったことを心配しないで、金持ちと貧乏人がいる格差社会になっている。そういうところは患えるのですねと。**「貧しきを患えずして安からざるを患う」**貧乏な人が多いことを患えない。心配しない。ただ、**「安からざるを患う」**と、上下が信頼しあう。こういうことはどうだろうねと。北朝鮮でいくと、北朝鮮の国民は貧乏な人が多いけれども、それはあまり氣にしない。上下信頼しないということがある。これは困ったものだね。日本も上下信頼しあっているのかなと思う。アメリカはどうなのか。トランプさんが出てきて掻きまわしていると見える。自分の周りをよく見てみればよい。**「蓋し均しければ貧しきことを無く」**みんな平等だとやっていって、本当に平等だと感じているのであれば、貧乏だってことは氣にしない。日本の終戦直後はみんな貧乏だったが、将来を夢見て前向きに進んでいった。これはみんな貧乏だったから氣にしていない。**「和げば寡きこと無く」**上下が信頼しあって、雰囲氣がとても和らかだ。**「寡きこと無く」**国民が少ないということだから、お互いが信頼し合っていれば、少子化が進んでいってもそんなに氣にはしない。**「安ければ傾くこと無し」**お互いに、安心して暮らしていれば、国家は傾くことはない。でも国家が傾くことはないと言っても、北朝鮮は傾きつつあるという言い方になるし、イランも傾きつつある。危ないですよね。**「安ければ傾くこと無し」**言い方を変えると、**「安ければ」**という国がどこにあるのかと思っています。それから**「夫れかくの如し」**政治はそういうものだと。「**故に遠人服せざれば、則ち文徳を修めて以て之を来す」**これはアメリカでいけばいいですね。**「遠人」**とは遠い国。遠い国がご無理、ごもっともとやらなければ、**「文徳」**は、文化的な政策で自分の所に寄ってくるようにさせればよい。トランプさんは、ここでいうように**「遠人服せざれば」**の**「遠人」**はイラン。イランがアメリカのいうことを聞かないのであれば、強権発動で、頭から叩いて、モグラ叩きをしようとしている。最近、話題になっているなと思うことは、日本も同じことをやりだした。韓国に対して報復措置をとった。何だ、日本もアメリカと同じように強権発動をやりだしたのかと。日本はそういう事をしない国だと思っていました。日本は、ならぬ堪忍するが堪忍という国じゃないのと見えていたのが、おかしいぞ、ということになります。それをここで「**故に遠人服せざれば、則ち文徳を修めて以て之を来す」**なかなか昔からこんなことは出来ないですね。中国の場合ですと、遣隋使というのがあった。元号の話でいくと、聖

徳太子が「日出る処の天子、日没する処の天子」という有名なものがあります。中国からみて遠い国々も中国の属国だから中国の元号を使い、近隣は従いなさいと。中国は強大な国だから近隣諸国を従わせようとした。日本は、いやいや我が国はお宅の属国ではなく、独立独歩の国だよといって「日出る処の天子」を出した。対等なので、元号を自分で作っていくよと外に対して初めてだしたわけだ。中国は、それに対して腹立って軍隊を送ろうとしたけれども、野蛮人のいうことで遠いし人手も割けないから、しょうがない見逃そう。決してこの**「文徳を修めて」**じゃないです。文化的政策をしたわけではない。だからこれは、たぶん孔子の願望だと思います。言い方を変えると、トランプさんと安倍さんの間柄は、逆の文徳ではないかという氣がします。笑われちゃったけどね。トランプさんの周りの人達からすると、安倍さんの手法でトランプを手なずけている。安倍さんを見習おう。我々はトランプと話はしたくない。近寄りたくないというのが普通の流れなのに、安倍さんは「文徳」には、限りなく遠いけれども、強烈ではない。文徳に近いようなことを考えて、アメリカと対していると読めます。今ずっと読んでいて**「故に遠人服せざれば、則ち文徳を修めて以て之を来す」**ここが一番おもしろい。げんこつで言うこと聞けとやるのか、飴玉をあげて言うこと聞けとやるか。それとも踊りを踊って見せるとか。日本だったら、能とか狂言を見せて素晴らしい国だとか、お茶を点てて飲ませるとか、おもてなしの国みたいにやっていけば、**「文徳を修めて以て」**になるから、そういうことで日本はやればいいのにと考えれば良いでしょう。

「今　由と求とは、夫子を相くるに、遠人　服せざれども、来すこと能わず」ここに書いてある**「由と求」**は、季路と冉有です。**「夫子」**とは季氏。季氏を補佐しなければいけない立場なのにも関わらず、遠国が服従しない、来させられないというのは、どういうことだと。**「邦 分崩離析すれども、守ること能わざるなり」「分崩離析」**は国家が分裂している。バラバラというふうに解釈してもらえればいいが、この場合は、魯という国の重臣の季氏（季孫）が魯の国の財産を横領している。もうひとつは、季氏の他に孟孫も横領しました。魯の国の君主は、全部かじられちゃったから、網の目からこぼれたような物を貰って生きている。この中で顓臾（保護国）は、魯の国に対して服従しています。でもここも、自分の領土に近いから顓臾も取っちまえと季氏が言っている。それを孔子が自分の弟子達に、これだけ酷いことをしている季氏に対して、なぜ諫めないのだ。あれは欲張りで、顓臾まで攻めて取ろうとしているのは何事だと言っているわけです。**「分崩離析すれども」**は、そういう意味です。**「而して干戈を邦内に動かさんことを謀る」「干戈」**は軍隊です。兵隊を国中に送り出そうと考えている。孔子が思うのに、季孫がいろいろ考えているのは、顓臾ではない。もっと自分の足元を固めなさい。悪さすれば足元から崩れるというわけです。田中角栄さんと竹下登さんになります。この年代だとこの話ができて良いな。この間、若い人に話した時、田中角栄が分からない。若い人達と話をするときには念のために「知っている？」と聞くと、全員は手を挙げないね。それで説明しましたが、田中一派の中で竹下登が独立をしましたけど、この中にまた一派を作りましたでしょう。そういうことを考

えて、これと同じようなこと政治家はやっていますね。安倍さんの後継者となるべく岸田さんは、自分の派閥をもうちょっと広げようとしている。石破さんは派閥なんて作らないと言っていたのに作った。全部同じことをしています。自民党という組織を、ここは俺の分、そこは俺の分。二階さんは酷い例で、反発している人を無理やり自分の所に入れている。自民党じゃないのに、それでも連れてきちゃう。これは今、分崩離析の最たるものを自民党の中でやっている。それで野党はどうかといったら、野党も同じことをしている。何をしているのと思います。ここの論語に書いてある物を現状に即して見ると、何だ、変わらないね。だったらこの中で、自分達に役立つものを勉強しなきゃいけないものはどういうものがあるか。自分で良いなと思う文章があったら、それを取り入れることです。おやっと思うものがあったら、それを自分の心の中で熟読玩味をすればよいと思います。ということで、論語についての視点はこんなところでよろしいでしょうか。それに合わせながら時事評論で申し上げます。

《時事評論》

日本とアメリカと韓国は、今までは仲良さそうに見えたけれども、韓国は次から次に駄々っ子が駄々をこねるみたいに、日本にあれもこれもと何度もちゃぶ台返しをしていますよね。これは昨日の読売新聞です。今の状態で見ると日本が報復措置をとったら、韓国はアメリカを通じて日本へ圧力をかけることを狙う。トランプさん、安倍さんが私をいじめるので、あなた親分なんだから、日本を、安倍さんを少し懲らしめてちょうだいと言っているようなものです。何で新聞はもっともらしく書くのだろうか。

グローバルな供給の仕組みを混乱させ、世界の貿易秩序も述べた上で韓米日の三国協力の側面から見ても望ましくないと、懸念を韓国の外務大臣はアメリカの国務長官と会談で伝えた。私は綺麗に書いてあるものは、疑わなきゃいけないと思っています。綺麗に書きすぎている。もうちょっと分かりやすく書いてほしいと思う。

日本の場合で見ると読売新聞（7/13）「輸出規制　韓国に説明」これ面白いですね。韓国に対して説明と書いてある。今日の朝日新聞は韓国に説明ではなかった。この韓国についての話がね。日本側は協議ではなく、韓国にこういう内容だよと説明をしました。朝日新聞は「議論平行線のまま」と、朝日新聞は「議論」と書いてある。こっちは「説明」と書いてある。日本側は説明と言っていて協議ではない。議論なんかしていませんという主張をしているが、読売は政府に対して忖度をする見出しを付けた。朝日は忖度ではなくて、なんていうのかな。何でこうやって書いたのだろうね。でも、少なくても新聞によって中身がだいたい同じものでも見出しで印象が変わります。日米韓の場合は、日本もアメリカのやり方を少し真似し始めたという印象があります。日本が正当化したのは大量破壊兵器関連が多発。韓国で軍事転用ができる戦略物資を違法にどんどん輸出するので危ない。それに韓国の管理体制がずさんだと説明をしている。こういう悪いことをしているから、こ

こを良くすれば元に戻すと本音があるにもかかわらず、美字麗句を並べて相手にはっと思わせるようにしようとしているのが、おかしいなと思っています。その他でいきますと、これはアメリカが叩いたことによって、ホルムズ海峡がきな臭くなった。ホルムズ海峡の船会社の保険が 10 倍になりました。あとは、今は参議院選挙の話だから、これも大きな間違いの部分がいっぱいある。

基本哲学の「知足」は、足るを知るです。「足るを知る」を哲学から見ると「ほどほど」で良いと申しあげています。

今日のテーマの「初心忘るべからず」を政治家でいったら、国民の皆様は幸せになって欲しい、みな平等にとか、いろいろ耳障りの良いことを言いますけれど、今度の消費税は10%に引き上げます。安倍さんは日本の国を滅ぼす手ばっかり打っている。

木内信胤先生も、専門家や哲学的な立場をとっている人は、国が危うくなったら、税金を減らせ。税金を取るな。国が危ういときに税金を取るのは国を滅ぼす元であると歴史的に見て一貫しています。だから今、増税・増税といきすぎていることは日本の国を滅ぼす方向に向かっている。それから、みんな貧乏で困るって話になるけれども、日本は他の国々と比べてどうなのか。以前は、日本だけが失われた 10 年、失われた 15 年、失われた 20 年と言う。何でそういうことになるのでしょうか。他の国はどうなのか。失われた何年とは言いません。なぜ日本だけそうなるのか。日本がデフレだからという説明をしますよね。では何でデフレになるのか。日本は物を作りすぎて、物が余っている悪循環。デフレの悪循環に入っているからという説明をします。物を作ったが買ってくれないで余る。余ると今度はダンピングして売るようにすると、値段が下がる。下落する。デフレは、どんどん悪循環に入っていく。これは、どこかで強権発動をして仕事を増やすしかないです。仕事を増やす。または買いたい物を輸入する。お金を使いたくなる。そういう動きにしなければならんと思います。物を作っても売れるようにするしかない。それは強権発動しかない。他の国々はやっています。日本だけがやらない。だからデフレが循環したままになっていると思います。ということで「初心忘るべからず」で、政治家はやっぱり見直しをして、自分が初心にかえってみたら、日本の国を富まし、国民を幸せにするにはどうしたらよいかを真剣に考えなきゃいけない。真剣に考えないから失われた 20 年になってしまっていると思います。参議院選挙で全員投票しなかったら面白いと思いますが、または白票だけにする。そういう運動をしたら、ちょっとは考えるでしょう。またはこの人を落選させたいというだけで投票をするとか投票の仕組みを変える。なので、今そういう仕組みを根本から直さなきゃいけない時期にきているはずなのに、それはできない。だから一回潰れなきゃならんところに来ている氣がしております。

今回、「初心忘るべからず」というのを出しましたので、我々は自分の原点を一度見直してみて、さて、そこからどう進んできたのか。自覚をしたら、その自覚を元にして、これ

からどう生きていこうかという初心をまた改めて作るのが良いと思っております。時間でございます。有難うございました。

《質疑応答》

比田井副理事長―ホルムズ海峡で自衛隊が派遣されるかどうなのか。

ホルムズ海峡は自衛隊が派遣されると思います。これは常識で考えるべきだと思います。物事は何となく複雑で、面倒で分かりにくいものは、単純に考える。それで単純明快なものほど簡単に壊れるから単純明快だと思うものは氣を遣う。ホルムズ海峡は、うるさい人達があちこちにいっぱいいて、実に複雑怪奇に見えるけれども、根っこは単純です。自分の城は自分で守れということだから、安倍さんは派遣すると思います。法律改正しなくたって、解釈の変更で行かせると思う。もうちょっと日本の国が荒れたら、日本の警備会社に鉄砲を持たせるように改正して行かせると思っています。

比田井副理事長－自分のことは自分で守れというのは、塾長はどう判断しますか？税金の無駄をやめて…

自分の力で守れというのは、前から言っていますけども、日本の国がオリンピック終わったとき、真っ逆さまに転げ落ちますと言っています。転げ落ちたときに、食べ物が無くなるでしょう。着る物とかお金とか、そういう物がどんどん減っていく。それから大災害がその時起きたらどうなるか。個人的に相互支援協定を結んで、どこかに困ったらそっち行くから頼むということを再確認した方がいいという話をしています。私はこの間、新潟に行きました。新潟の友人の自宅に寄って、もし新潟で災害があったら群馬にいらっしゃいと言いました。新潟の友人は、群馬でおかしなことがあったら新潟へいらっしゃいという確認を取り合ってきました。今月は北海道に行きます。北海道でも同じことをやります。ということで、相互支援協定は結びました。あとは戦争が起きる可能性が、内戦からちょっと広がる可能性があるなと思うので、貴重品は値上がります。例えば、防具だとか宝石だとかです。今のうちに若干でもキャッシュがあったら、そういう貴重品に変えておいた方がよかろうと思っています。ただ本当に乱れたら、直ぐ贋金が出てくるから、そこらへんを考えなければいけないのだろうとは思います。今の株は、全体的に下がっていますが、ゴールドは上がったまま下がらない。株式の場合は日本の国が潰れても、残るような企業の株だったら、若干持ってもいいんじゃないかなと思います。

株に対する手当、貴金属類に対する手当。それから後は土地。土地は食べ物を作ってい

く必要がある。どうやって食べ物を作るか分からないのではなくて、ジャガイモを作るのにはどうしたらいいのか。サツマイモを作るにはどうしたらいいのか。猫の額ほどでもいいからとにかく自分で食べられるものを作るという体験をする必要がある。家庭菜園でよい。なければプランターも良いでしょう。私は自宅のプランターでキュウリとトマトを作っています。カラスが食べてケシカランと思いますが、でもそういうことで、食べ物を自分で取るがよい。魚も自分で獲って自分でさばく。自分で煮たり焼いたりして、とにかく食料を調達して自分で調理して食べる。自己完結型の家庭に、または個人になっておく必要があると思っています。まずそれは個人の分で、それを会社または組織として広げていき、仕組みとしてやればよいと思っています。それで、日本の国はあてになりません。

会員－20 歳の時に何故カンボジアに行ったのでしょうか。

動機は前にも申しあげましたけれども、単純です。中斎塾フォーラムの大野参与は大学の先輩でした。参与が香港・台湾を、私は行ったと思っていましたが、本人の話ではこれから行くということを下級生に話したのです。中国語を勉強するクラブ活動があって、大野さんは部長で私は新入生で話を聞いた。それで、香港・台湾の話を聞いたら、私も行きたいなと思った。行こうと決めて、それで行っただけのことです。その時は、まともなお金もないから、ビザ取れるだけ取ろうと思って自分で各大使館をまわって何が必要かと聞きながら色々な国のビザを取りました。でも地図を見て、どうやって行ったらいいか分からないけれど、地続きだ、海は船で、ここら辺なら行けるんじゃないかという事でビザをばんばん取っていっただけのことでした。是非どこかに行きたいというのではなく、行き当たりばったりでした。

会員－お金はどうしたのですか？

お金は掻き集めました。学生でしたから貧乏でお金がありません。今でもはっきり覚えているのは、卒業してしばらく経って学校に遊びに行きました。そしたら何先生かは覚えていませんが、「私は深澤君にカンパしたんだよ」と言われました。君の後輩が、先生方のところを回って深澤さんが東南アジアへ行こうと必死になって金を集めている。アルバイトもしているが、でも足りないと言っている。奉加帳を持ってきてお願いしますという。それで問答無用に金を出させられたから、私は君にカンパしているよと言われて、それは有難うございますと答えました。聞いてみるといっぱいいました。後輩や同輩からも取ったし、確か先輩達からも取ったな。金の集め方は酷いね。それでも帰ってくる時に 100 人分のお土産を持ってきました。100 人分のお土産を持ってきて抽選でお土産を配った。勝手に大きい部屋を占拠して「深澤にカンパした人は集まってくれ」と呼びかけたら沢山の人が来たので、抽選にして、抽選に外れた人はフィリピンの星の砂を何かに入れて配って、

お土産を全員にあげました。一番金が掛かったのは台湾で買ったムササビの剥製でした。あとは回りが結構助けてくれた。香港と台湾と日本に拠点がある貿易商社があったのですが、横須賀さんという先輩が、お金を払わずその貿易商社の一室に住み着いていて、その先輩に色々と教わりながら仕事をしていました。そしたらそこの社長が氣に入ってくれて、「君、外国に行くそうだけど香港までの旅費を出してやろうか。その代りこの荷物を持っていってくれ」って、ごっそりと持たされたけれども、それで香港まではタダでした。香港に着いたら、そこの拠点の人達がいろいろ親切にしてくれました。

私が高校時代の友達と話をしたら、何が何だか訳わからないうちに連れてこられて中華料理屋でアルバイトさせられた。あれは湯島の聖堂だった。湯島聖堂の上に賽銭箱がある。その頃、賽銭が盗まれていた。それで「深澤君、暇そうだから、あそこで賽銭泥棒を見張って」といわれてアルバイトでやりました。色々なアルバイトをしました。先程の貿易商社も変わっていまして、アルバイトの学生に権限を持たせて、地方のデパートに行って交渉させて地方のデパートで催事をさせてもらった。向こうの人と交渉して、台湾の民芸品を仕入れて売る。その責任者になりました。社員が来たら社員を使ってやっていましたが、面と向かって文句は言わないで、みんなやっていたね。そういうアルバイトを色々やりました。

あとは心の貯金。大野さんの話を聞いて行きたいと思った時、その日に大学の坂をずっと九段坂までおりていくと、おりた所に協和銀行があって通帳を作りました。毎日それから貯金をしました。ずっと貯金通帳に印字されていくのを見ると、心の中に貯金が段々溜まっていく。ずっと印字されていくと、人に見せたくなるから見せると「凄いね。何に使うのか」と聞かれ「旅行だ」と答えると、段々旅行に行くということになる。

最初に貯金したお金は１円でした。１円を貯金して翌日は２円。その次の日は３円。そうすると行きたいという証明になる。応援してくれる人はそれを見ると、なるほど本氣だということで協力してくれました。

会員－オリンピックはできると思いますか？

わかりません。やっぱり五分五分で危ないです。戦争が起こったら出来ません。前日に出来なくなる可能性はまだあると思っています。大災害がきたら出来ません。今、世界各国で起きているもので、ひとつの村ぐらいが、ごそっと陥没する話がありますでしょう。それが仮に、そのオリンピック中のメインスタジアムなどで起きたら出来ますかね。それから大災害が起きて、相当の人数が死んだ場合。何万人クラスの被害が出たらば、やれますかね。これは危険性がとっても高くなっています。だから前から、五分五分と言っていたけれども、当日になったら、出来ましたとなるかも知れないし、前日まで、私は五分五分だと思っています。